

## 論文要旨

所属ゼミ	高木晴夫 研究会	学籍番号	80329010	氏名	村田 治子
(論文題名)					
日本社会における「経営環境」・「企業システム」・「従業員」の相互関係					
(内容の要旨)					
<p>本論文では、はじめに取引コストの経済学、動機づけのメカニズム、組織の自己組織性の視点から、日本社会における「経営環境」・「企業システム」・「従業員」の相互関係を分析する。体系だった統一のアプローチ方法をもって日本的経営を分析することにより、日本的経営が持っていた「幅の広く・内容の深い企業特殊的技术・技能の向上を促す好循環」のメカニズムが明らかになる。つづいて、日本的経営がどの企業においても通用する万能薬ではなく、擦り合わせ型の製品アーキテクチャを持つ企業には日本的経営を行うことによってもたらされる統合能力が、モジュール組み合わせ型の製品アーキテクチャをもつ企業には米国的経営を行うことによってもたらされる選択能力が好ましい組織能力であることが明らかになる。</p> <p>現在多くの日本企業には統合能力を保持しながら選択能力を発揮することが求められている。これらのメカニズムを理解することにより、盲目的に米国式の経営スタイルを模倣するのではなく、日本的経営によってもたらされる統合能力を保持しながら、その問題として指摘される点を克服していくことにより、選択能力をも発揮していくことが可能となる。</p> <p>最後に、日本的経営を行う企業がその問題点を克服し、選択能力を発揮するために必要となる「運用上発生しがちな従業員および経営陣レベルでの経営規律の弛緩を避けるための施策」を提案する。なお、これらの施策の実施にあたっては、従来のように従業員や組織がもつ自己組織性を「計画・管理・制御」する発想ばかりではなく、逆にそれを阻害しない(支援する)視点を忘れてはならない。</p>					